

マテリアリティ

マテリアリティ特定のプロセス

JSRグループでは、企業理念である「Materials Innovation」の実現に向け、長期的かつ持続的な成長を実現する上で重要な非財務課題を「マテリアリティ(重要課題)」と位置づけ、2025年度に見直しを行いました。今回の改定では、まず経営層向けワークショップで洗い出したマテリアリティ候補を起点に、顧客、サプライヤー、地域社会、金融機関、行政などの主要なステークホルダーが重視する社会・環境課題を、公開情報の調査およびヒアリングを通じて把握するとともに、課題ごとの重要度を整理しました。さらに、当社役員による投票および議論を通じて、「自社の活動における重要性」と「ステークホルダーからの期待・要請」の両面から、各課題を評価しました。これらのプロセスを経て、当社の成長と顧客および社会への価値提供の観点から、特に優先して取り組むべき課題をマテリアリティとして特定し、2029年度までのKPIを設定しました。なお、その他の課題については、これまでの活動を通じて一定の水準に達しており、今後も維持・向上を図ります。

新たなマテリアリティ

JSRグループでは、特定したマテリアリティを価値創造につながる一連の取り組みとして整理しています。まず、良き地球市民として社会的責任を果たすため、「気候変動への対応」「自然資本の持続可能な利用」「責任ある製品・サービスの提供」に取り組みます。これらは、環境負荷の低減にとどまらず、循環型社会への対応や持続可能なサプライチェーンの構築、地域社会との共生など、事業を長期的に継続していくための基盤となるものです。その上で、企業としての力を高めるための基盤として、「強固な経営基盤の確立」と「個が磨かれ共に高め合う企業文化の醸成」を推進します。自律的に挑戦する人財と、それを支えるガバナンスがあってこそ、技術を価値へと結び付ける力が高まると考えています。こうした取り組みを通じて、「サイエンスを極め、顧客および社会への価値を創造する」というビジョンの実現につなげ、顧客に選ばれる技術と社会に貢献する付加価値の高い製品を生み出し、世界の前進に貢献する企業であり続けます。

自社経営資源の強化とともにサイエンスを極め進化する社会への価値創造 — 6つの要素からなるマテリアリティ

